



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご！』はみなさんの支援力がエネルギー源

さあ！これからが本番

総会を終えて

5月18日（土）おぶすまコミセンにて

お知らせのように2019年度の総会は寄居町議会議員選挙の関係で5月に開催されました。選挙は無投票となり無投票当選という事態は、複雑な思いではありますが、議会へのスタートラインに立つことになりました。総会は、議長の新井裕さん進行の元速やかに終了し、その後、出席した会員の方々からこれからの寄居町への思い、今後に向けて様々な意見交換を行いました。具体的な活動は、年4回の定例議会を挟んで、大北議員の議会報告を聞きながら検討していきたいと思います。

後日、報告会（仮）を開催します。

初体験の日々2か月と15日 高齢新人の奮闘続く

「新人3名が来ない」。議会最終日は8時半より常任委員会が開かれる。が、新人議員3名がそろって大幅遅刻。

議会初日の委員会は書面で通達を受けている。が、最終日のそれは受けていなかった、という言い分など通用しない。

臨時議会と6月定例議会、全員協議会、常任委員会、特別委員会。これらは条例に基づく、いわば“乾きもの”。で、オレンジ。一方、地区の協議会、連絡会、委員会などは“生もの”という感じでグリーン、と、色別で仕分けした予定表が、瞬く間に埋まり、脅迫感的圧迫感が続く。

それぞれの議員は、主張や意見にかなりの自信を持っている。安易に妥協しない。当然だがその裏付けに「町民のために」があることも知った。個人的には妥協は、人との関係、いろいろな場面で、いい意味で好作用し、いい結果をもたらすことの方が多かった。しかし、これからの4年間の「仕事場」はそうじゃない。自分の主張。意思をどう伝え理解してもらい、説得してもらえるかが大きくなる。文字通り「議論の場」に身を置く。そしてさらに、議員としての責務もある。一つは町全体の一般的な意見、意思をどう反映するか。もう一つは、個人的な支持者や地元地域の意見や意思の反映。二つが同居し矛盾する。二つにどう向き合って対応するか。それが議員の資質なんだよ、と言われそうなのだが…。

新人研修の際、計ると8センチもあった書類とは別に、これを指針としてください、と「議員必携」を渡された。日本国憲法に基づいて地方自治体議会の在り方と議員の教本。議会基本条例づくりに依拠されている辞典でもある。

指針を依拠する場面にまだ出合っていない。たぶんそれは、暮らしの中の声なき声に向き合っていないからではないか、という自問の突き上げが正直ある。それどころではない忙しさだった、という甘えもまた正直ある。

こんな実情です。暑気払いが終わるころには、まちネットと一緒に研究できるテーマが具体化できそうです。

末尾になりました。議会の場に立たせてくださったご支援改めて御礼申し上げます。

大北ひさかつ



家庭菜園講座

今年も元気に継続

冬から春へ

昨年から町外の参加者が増えています。家庭菜園の魅力に取りつかれて、さらにステップアップを願ってという方、これから始めますという方など動機は諸々。国内自給がますます厳しくなる中で、わずかな面積でも自分で作って食べる姿勢は貴重な体験。作ってみて初めてできる自然との対話、野菜の安全性の確認。毎季節新しい発見と出会いがあります。プランター栽培もできます。あなたもぜひ参加してみてください。



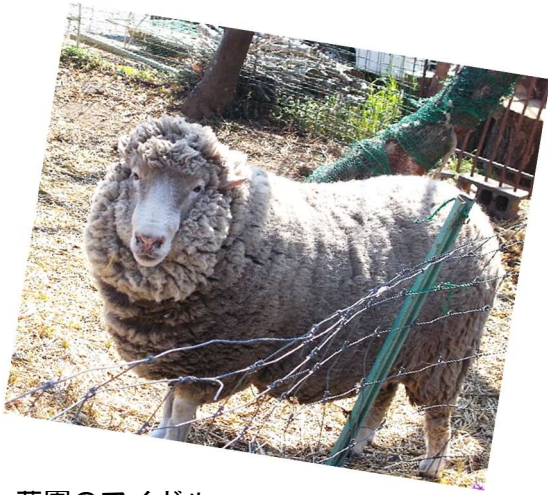
これなに？ 正解はこんにゃく芋です



ニンニクの芽だよ



ピーマン苗の植え付け



菜園のアイドル

会員によるリサーチ、現状報告、意見出し。ネットから独自の議案も出していきたい。

以上、書き出してみると、特に目新しいことではなかったが、私には、どれもとても興味深い。ワクワクするなあ。みなさんは、どのような「連携」を考えますか？

そしてなにより大切な「ネットで何をしたいですか?」。どうぞ、ご意見お寄せください!!

(KY)

新しい風へ



2019年、まちネットワークよりい 設立から17年、ネットと連携を結んだ大北ひさかつ議員が誕生した。既に寄居町議会に新風を吹き込み始めていると聞いている。そして同時に私たちネットにも新風が吹き込まれていると、私は感じている。多くの会員の皆さんも、そう感じられている事と思う。今までとは違う何かが出来ると。

ここ数年で議会改革は進み、若手議員が議長になり、議会だよりの紙面の充実、委員会の傍聴、そして議会のインターネットによる動画配信ということまで変わり、議会は以前よりも身近に感じられるものになってきた。けれど、この連携議員の存在によって、ネットは、私は議会と繋がったと実感できた。

そして改めて「連携」について。「連携」とは「お互いに連絡を取り協力して物事を行うこと」とある。では、具体的にはどうゆう事だろう？

私はこう、考えた。「お互いの連絡」は年4回の議会を軸にした会合。大北議員からの議会報告。ケースによっては、配信された本会議の動画を見ながらの解説も臨場感があって面白いだろう。予算案や決算報告の読み解き、等々。そしてネット会員からの質問、意見。

次に「協力」。これは例えば議案について、ネット

ネット会員便り



小さな国際交流

ウーフジャパンのホストになって10数年になる。ウーフとは 有機農家であるホストと、日本全国・世界各国のボランティア（ウーファー）をつなぐ仕組み。発祥はイギリスで、国際的なウーフの組織がある国の数は60ヶ国になる。互いへの信用と無報酬に基づいた人と人との交流だ。

これまでたくさんの人が農場を訪ねてくれた。1週間から数か月滞在し、寝食を共にしながら農作業を手伝い、観光とは一味違う生の日本人の生活を味わっていく。

労働ではなくあくまで手伝い、家族のような関係だ。お金のやり取りはない。ゼスチャーを交え、スマホの翻訳の助けを借り、その日にしてほしいことを伝える。

ドイツ・イギリス・アメリカ・イタリーのウーファーが重なった時期があった。たまたま食堂で、第2次世界大戦の同盟国同士が向かい合う形に席についたのだ。ホストでもある田中が、「先の大戦では済まなかった。2度と戦争しないと誓おう」とドイツ人のアレックスに声を掛けた。皆、笑顔で不戦を誓った。





ベジタリアンも多い。イスラム教とヒンズー教のマレーシア人二人、肉が大好きなメキシカンとカナディアンが一緒になったことがある。使える食材に制約があり、献立に苦労する。心優しく誠実なイスラム教信者のマレーシア人ウーファーとは、深い友人になった。彼は金曜日、日本にあるモスクに通う。教会へ通うクリスチャンもいれば、趣味の弓道や合気道のクラブに通う人もいる。

今年の4月は大学受験に失敗し、進路に悩んでいた日本人の青年がここでの2か月の体験をばねに、先日オーストラリアに旅立った。滞在中の陽気なフランス人ウーファーと仲良しになり、自分の語学にも自信をつけて、“ひきこもり”の心配をはねのけた。

農協の直売所にも時々連れていく。おじいちゃん・おばあちゃんに片言の日本語で挨拶し「畑仕事好きなのかい？」と声を掛けられる。大みそかの鐘つきや夏祭り、イベント参加は小さいゆえに彼らにとって味わい深いようだ。

私は厳しい農作業を手伝ってもらいながら、「小さな国際交流」を楽しんでいる。

鈴木恵子

クヌギの森を歩いて



友人が『クヌギの森』というところに招いてくれました。整備された山道を登っていくと広場にたどり着きます。すでに大勢の人が集まり、忙しくお料理やクラフトの準備をしています。有機野菜の漬物やサラダ、天ぷら、おいしそうなお馳走が次々と並べられていきます。流しそうめん用に竹で作ったトイが長く設置され、子供達のために篠竹の紙鉄砲作りも用意しています。そうして緑豊かな木々に囲まれて、おいしく楽しい時間を過ごさせていただきました。

この素晴らしい森と大勢の人が集まる豊かなコミュニティ活動はどのようにして可能になったのでしょうか。というのは寄居町にある山々は雑木林が多いのですが、どこも荒れて篠竹が生い茂り常緑の木々が増えてしまっていて人が入れなくなっているからです。最初はこの山の山主さんが一人で道づくりをするところから始まったそうです。きっかけは病気になったお母様のために散歩コースを作る事だったのだとか。ところが道を切り開いていくうちに自分自身、其処を歩くのが楽しく心癒されていたそうです。そうなると道づくりはさらに進み、広場を作り、そこに小屋を建て、流しを作り、トイレを設置し、今ではレンガ造りの露天風呂まであるというから驚きです。



7年目の木曜野菜市

とは言え、これだけのことが一人で維持されてきたわけではなく、ミニゴルフ場建設や 3.11 やイノシシ問題など多くの危機を経て、地元で有機農業をやっている人たちをはじめ多くの人たちが環境の荒廃を憂い、何とかしなければという思いと努力で実現した自然再生です。現在『寄居町耕す人の会』（地元の 50 人ほどの有志の会）が、冒頭の子供会との夏休みコラボ企画「流しそうめん」の他に年 2 回下刈りをして、その時に新緑会、芋煮会などのイベントをしているそうです。畑にイノシシが出てきて大きな被害を受けていたのですが、山をきれいにすることでイノシシが出なくなったそうです。そして、何十年も暗く花が咲かなかった森には、チゴユリ、フデリンドウ、キンラン、ササバギンラン、ジュウニヒトエなど昔は普通にあった花々が咲きだしています。



ですが、この下刈りをやめてしまうとたちまち森はまた荒れてしまいます。皆さん忙しい方たちばかりで維持していくのは大変な苦勞です。また、山を開放し大勢の人に山のすばらしさを知ってもらいたいと願う山主さんは本当にまれです。私が子供のころは当たり前にあった山が、シュンランやヤマツツジを楽しんだ山がもうほとんどありません。私はこの貴重な『クヌギの森』を守り育てるために大勢の人が協力し、新たに山のすばらしさを体験する人が増えてほしいと思いました。

白井操子

2013 年 5 月からスタートした木曜野菜市はなんと！7年目に突入しました。6年もの長期にわたり新鮮でおいしい安心の有機無農薬野菜たちを提供してくださっている「おかず畑」の増谷さん、同じく安心野菜を緑肥として食べている健康な鶏たちの卵を提供してくださる「鷹巣」在住の大島さん。本当にありがとうございます。

毎週皆楽しみにしながらこんな恵まれた環境にあることに感謝のみ。毎週届けられる野菜たち、卵を見ながら感謝とともに身が引き締まる思いで、このご厚意を無駄にははいけないとしみじみ感じる木曜日の朝です。おかげでネットのお財布も少し余裕ができ昨年も「憲法カフェ」の開催が実現しました。

「人と人とのつながりが原点！」を痛感し、この寄居の地でネットの活動ができることに感謝あるのみ。思いのある人たちとのつながりがネットの醍醐味です。増谷さん、大島さん、元気な野菜、卵に励まされて今年もまちネット寄居は邁進します。

がんばるぞ～！！



7月4日告示、21日投票の参議院選挙の期日が近づいています。埼玉県市民ネットワークでは、立憲民主党公認として立候補の2人の方の推薦を決めました。全国比例区候補では「若林ともこさん」埼玉小選挙区では、元さいたま市議会議員の「熊谷ひろとさん」です。若林さんは、神奈川県市民ネットワークの事務局長としても活躍されていました。

埼玉県市民ネットワークが、立憲民主党の立候補者を支援することに違和感をもつネット会員の方もいらっしゃると思います。私たちの基盤は地方自治体として活動してきました。国政への足場はできていません。しかし、現状の政治は、民主主義の根幹を揺るがす行為が平然とまかり通っています。この流れにブレーキをと多くの方が思っています。そのための選択肢として、「草の根の政治」「生活者の声が響く政治」を標榜する立憲民主党が今、一番私たちに近い政党なのではといったことから、衆議院議員大河原雅子さんに続き、今回の支援を決めました。与党3分の2議席確保を止めましょう！後日、県ネット通信が発行されます。お読みください。



お知らせ

ネット会員募集

毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることから出発。一人ではなく皆で話していきましょう。私発が原点です。安心して暮らせる地域を私たちの手で。ぜひ、お仲間になってください。
問合せ：大北（080-5933-7154）

今年も荒川流域の一斉水質調査が行われました。下の写真は、吉野川、赤城橋下流の川です。ここは毎年ワースト1の地点で、白い泡が浮いて流れアンモニア臭がしています。この川に流れ込む養豚場からの汚水が原因です。国産の豚肉がどんどん追いやられる中で、汚水対策も大きな課題となって長い年月が経過しています。この水は田んぼに利用され、荒川に合流します。写真下は、荒川中流域の植松橋からの美しい風景です。

大北秀子



編集後記

ネット総会が終わり、さあ、今年度の計画をと思ったらなんと半年間しか残っていません。通信の発行も遅れてしまいました。ここまで来たら焦っても仕方ないと思いながらも落ち着きません。参議院選挙の次は埼玉県知事選挙。選挙続きの2019年です。まずは足元の活動からですが、選挙に無関心ではられません。「生活は政治」こんな当たり前のことにひかれてしまう社会っておかしいよね。どんどん息苦しくなる社会。大人のひきこもりが60万人を超す国って異常です。8050問題は身近な問題となっています。